

令和 8 年 7 月

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

岐阜県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
瑞穂市立穂積小学校	瑞穂市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
瑞穂市立穂積小学校	https://edu-mizuho.com/hosyo/20220419_3584/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
瑞穂市立穂積小学校	https://edu-mizuho.com/hosyo/page-3405/	https://edu-mizuho.com/hosyo/page-3405/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

<特記事項> なし

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は児童生徒を含む外国人が年々増加傾向となっている瑞穂市において、文化や言語の違いを乗り越えてどの児童もグローバルな視点を持ち、互いを尊重し合えるよう低学年の早い時期から外国語活動・外国語科の教育を行うものである。

本校では、外国語活動・外国語科の学習を通して、英語に親しむとともに、異なる文化や考え方にふれる機会を継続的に設定してきた。令和7年度後期学校アンケートでは、「子どもたちは、楽しく英語を学んでいますか。」の項目において、児童の肯定的回答が高く、外国語の学習に前向きに取り組む姿が見られる。

一方で、英語で話すことへの自信や既習表現を活用する力には個人差も見られるため、今後も、安心して発話できる環境づくりや、児童一人一人が「できた」と実感できる手立てを充実させる必要がある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

早い時期から外国語活動・外国語科の教育を行うことで、英語を聞いたり話したりすることへの抵抗感が少ない児童が育ってきている。また、外国語を通して自分の思いや考えを伝えようとする態度や、相手の話を聞いて反応しようとする態度は、主体的に学習に取り組む態度や、他者に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっている。

一方で、即興的にやり取りする力や表現への自信には個人差があるため、発達段階や児童の実態に応じた指導の工夫を継続していく必要がある。

4. 課題の改善のための取組の方向性

今後も、低学年からの外国語活動・外国語科の学びが系統的につながるよう、英語教育推進教師や学級担任、ALTが連携し、各学年で身に付けさせたい力や言語活動の位置付けを共通理解していく。

また、相手意識や目的意識のある言語活動を設定し、児童が「英語は楽しい」「伝わった」「できるようになった」と実感できる授業づくりを進める。あわせて、児童アンケートや学校評価、授業中の姿や振り返り等から実施状況を継続的に把握し、外国語の学習に前向きに取り組む児童をさらに増やしていきたい。